

The World 世界の旅

このコーナーはエムトラをご利用のお客さまや、エムトラスタッフ(や、そのペット)から寄せられた世界の話を皆様に紹介するコーナーです。貴重な体験をお持ちの方はどうぞエムトラへ。



谷村くんの 北欧見聞録 in フィンランド

ふと気づくとすっかり秋の様子で、家にいるときははたいて窓を全開にすることが多い。今日は朝早くから外に散歩に行ったりして、心地の良い秋の金沢を楽しんでいた。そういういえばすっかり時間が経ってしまったけれど、今年の夏休みの僕と彼女は、うだる暑さのお盆真中に日本を逃れて、ちょうどこんな、気持ちよい風が流れる北欧に滞在していたのでした。

フィヨルドの事でも書くのが普通でしょうが、僕は断然サーモンだ。とにかく、サーモンが美味しいことをお伝えしたいと思います。思えば、はじめに降り立ったフィンランドでまず入った、川辺の屋外レストランで適当に注文したものがサーモンスープでした。

忘れられない。なめらかで、うまみがあり…。
ちょっとミルクっぽい白いスープにサーモンのピンクのオイルが浮いていて、中には蒸した様に柔らかいサーモンがごろごろ入っている。最高だった。次に衝撃を受けたのは、朝ごはんのバイキングにおいてある大量のうまいサーモンの山だ。適当な野菜やチーズと一緒に、うまいパンに挟んでサンドイッチとする。うまい。忘れられない。
いや、忘れようとしていたのに、エムトラ通信を書くために写真を見返した途端、一気に思い出出て、そして辛くなってしまった。手の届かない恋。僕とサーモンは、いまや時差6時間分も引き裂かれてしまったのです。

僕らは、あの最高に美味しいサーモンスープと、サーモンサンドイッチを食べるためだけのためにでも、もう一度北欧に行きたい、なんて言いながら、お腹を空かしてこの記事を書いています。

ある日、カボエイラ合宿たるものに参加することとなり、爽やかなバイア晴れの下、他の団体も含めた大勢のカボエイラが集結し数台の大型バスに乗り込み詳しい目的地も知らぬまま流れに流され合宿地へと出発した。山や海を横目にヤシの木々バナナの木々何かの骨々といった自然溢れるオフロードを昼夜ひた走り、やつとの思いで海沿いに密かに存在するシリビニャという町に降り立つた。昼夜移動したのに同じバイア州だったにはブラジルの大きさを改めて感じた。

夜に着き、早速案内された宿にはベット一つが丁度はまつている究極のワンルームが用意されており、とりあえず一息ついてみると上、右ともに即壁という落ち着かざるを得ない空間(閉所恐怖症の人は発狂もん)で、

前回の終わりにもう一度自分なりのカボエイラ観を語ると締めたがくどく感じたのでそれは最終話にして、今回はブラジル滞在中に起きた「今日は俺の日」現象をお聞きかせする。僕は幸せなことに今まで生きてきた中で自分中心で世界が回っていると自己満足する日がたまにある。

*
エイラ観を語ると締めたがくどく感じたのでそれは最終話にして、今回は

なみむらくんの カボエイラ修行記⑦

前回までのあらすじ：カボエイラを極めるべく、“マイ・ハニー”エミさんと共にブラジルはバイアへと旅立った中村君。到着早々の祭りで現地の習慣に戸惑いつつも、ようやく通常運転に戻った町でカボエイラ漬けの日々を送り、自身のカボエイラ観を深めていく。そんな中村くん、今回はカボエイラ達が集結する合宿に参加することになったが…。

横になり足下を見ると漆黒の闇が広がるブラツクホール化した簡抜けの小窓が併んでおり、そこから入る潮風と波の音がより流刑臭は空海の青に壮大な人道雲といつたオーシャンビューが広がり陽の光とともに癒しが差し込んだ。そんな独居房を拠点に3泊4日に渡るカボエイラ合宿は始まった。

合宿の流れは参加している各団体の師匠や先生(地位は師匠が上)が行うワークショップが学校の時間割のように割り当てられておりそれを朝から晩まで受け続けるといった内容だった。とりあえず流れに従い初日始めのワークショップに参加してみれば、参加人数に対しても道場のキヤバが小さくただ立つてるので圧迫感があり、そのうえ床は潮風でやられスケートリンクのようにツルツルにコートで走っていた。いざワークショップが始まり皆一緒に動けば、滑るわこけるわぶつかるわのんやわんやで全く集中できない環境だった。そんなことはお構いなしでワークショップは内容通り押し進められ、何も体得できぬままそそくさと一限目は過ぎ去った。初回にそれを経験した僕は意味がないと判断し、その後も続いた30くらいのワークショップは本当に興味が湧くものだけの計3回に参加し、他はサボって絶景広がる砂浜で自ら練に徹しながら1日を過ごすこととした。そのライフスタイルで時が過ぎ迎えた最終日にそれは起きた。

最終日の幕開けはなぜかマラソン大会で朝からまた多くのカボエイラたちが集結した。日本人というだけで小馬鹿にされるこの世界、僕はなめられまいとルール説明そつちのけでとにかく一番前のスタートラインを陣取った。合団がなり勢よく飛び出し好スタート、先頭を走り誰もついてこれていない

ことを見た己の走りに軽快さが増したところである異変に気付く。誰もついてこれてないのではなく誰も走っていないかつたのである。それに気付き誰かのラインがかと思いつら意気込みよく臨んだマラソン大会は愚かに晒し者として幕を閉じた。ゴールまでの一本道再び浴びた波状口撃の激化は言うまでもない。大会後町を歩いていてもそれは続き戻つた宿でまさしく流刑囚のごとく午後のプログラムを待っていた。

そして午後は合宿最後のプログラム、ジョンゴ(1対1でやる実戦)の大会が行われた。本来カボエイラには勝敗はないのだが、ブラジルではカボエイラ界を盛り上げるために競点基準(大会によって異なる)を設け、敢えて勝敗をつける大会が時折行われている。大会が行われるあのツルツル道場には参加者全員が事前にもらつていた大会規定Tシャツを着て集合していた。僕はまたタイミング悪くその大会は始まつた。

日本では暗いイメージが強い「墓地」も、海外ではお散歩がてらに行くような明るい雰囲気。そして、芸術家やミュージシャンの墓前に手向けられるものも個性的です。

例えは…
フランスの音楽家、セルジュ・ゲンスブルの墓には、曲にちなんでキャベツが丸ごと置いてある。

例えは…
19世紀の作家、オスカー・ワイルドの墓には、無数のキスマークがつけられている。

正木もスリランカではアーサー・C・クラークの墓前に手を合わせました。

旅先でひととき墓地を訪れてみると、その国の文化に深く触れることができるかもしれません。

※一般公開していない墓地もありますので、要確認を。



旅先で、
“芸術家の墓”
巡礼。

M-Tra★ Produce

Day1 直行便にて、旅の起点・サンフランシスコに到着。アメリカへ来たからにはまずはハンバーガーを。さすが本場、日本では知られていないチェーンも多く、ヘルシーなベジーバーガーなんでもありますよ。午後は伝説の本屋「ティライツ」に行ってみましょう。明日に備え早めに就寝。★サンフランシスコ泊

Day2 カリフォルニアの海岸線を走る『コーストスター』号に乗車。キラキラと輝く太平洋の景色やオレンジ畑、草原を横目にダイニングカーで食事とワインはいかが?サンフランシスコを発つて約12時間、21:00 ロサンゼルス着。★ロサンゼルス泊

Day3 ピータウンの雰囲気を味わいたい!そんな貴方は起きさせてサンタ・バーバラへ行ってみましょう。スペイン風の建築が立ち並び、アメリカ人のリゾート地としても人気です。昼食は新鮮なロブスターサラダがおすすめ。LAへ戻り、夕刻『サウスウェストチーフ号』に乗車。2泊3日でシカゴを目指します。★車中泊

Day4 アリゾナやニューメキシコ、コロラド等8州を跨ぐこの路線は、まさに鉄道版ルート66!赤土の大平原やオールドアメリカの雰囲気が残る町並、荒野を疾走します。この地が舞台となった小説「怒りの葡萄」を読めば味わいもきっとひと押し。地平線に沈む真っ赤な夕陽、車窓を流れゆく大自然を眺めるうち、自分がちっぽけに思えてきます。★車中泊

Day5 夜が明けると、そこはカンザス州。ミシシッピ川を渡り農村地帯に入れば、シカゴまでラストスパートです。建築とアートの街、大都会シカゴに15:00 着。夜はシカゴ・ブルースを聴きに出かけでは。★シカゴ泊

Day6 NY、ボストンと並び3大美術館と称されるシカゴ美術館へ。ゴッホやゴーギャン等巨匠の作品がずらり…。スタッフ押すはエドワード・ホッパーのナイト・ワークス。アメリカの光と闇を感じられる名作です。

西海岸から始まった旅も終盤。シカゴの美しい高層建築群を眺めながら、夕刻、空港へ向かいます。広大なアメリカを肌で感じた貴方は、きっと心も体も一回り大きくなっているはず…。直行便にて、帰路の途へ。★機中泊

Day7 夜、東京着
+A コロラド川沿いにロッキー山脈を越える、サンフランシスコ発シカゴ行のアレンジも可能です。時間が許す方はシカゴからNYまで鉄道で制覇してみましょう!(所要約19時間)



Day4

【午前】成田空港発、直行便でコタキナバルへ。<月曜出発限定>
【午後】到着後、現地係員とともにホテルへ。その後はフリータイム。
早速、緑の庭園の中にあるプールでリラックス。
プールサイドでドリンク&軽食はいかが。
夜は少しドレスアップしてホテルのダイニングへ。
シャングリラズ・ラサリアリゾート泊

Day2 【終日】フリータイム。楽しい休暇をお楽しみ下さい。
下記のオプショナルツアー(料金別途)もおすすめ!
【海と山の両方を満喫したいあなたには…】
ガマ島トレッキング＆ショノーケル(BBQ昼食付)
ガマ島で森林の中をトレッキング。
その後セピア島へ移動してショノーケリング。
【ジャングルを体験したいあなたには…】
リバーサファリ(軽食＆フレー料理の夕食付)
市内から車で2時間の村でジャングルクルーズ。
テングザルや豪華な動物を見られるかも。
【夜の街を散策したいあなたには…】
コタキナバルナイトツアー(海鲜料理の夕食付)
ナイトマーケットやお土産店でショッピング後、
セピア島の先住民族舞踊を鑑賞しながら夕食。
シャングリラズ・ラサリアリゾート泊

名犬モモー四旅 モスクワ地下鉄編

※この物語はフィクションです。

ズドーストヴィ!
シベリア鉄道でロシアを横断していたモモは、終点のモスクワに到着。今日は地下鉄に乗って街を散策します。
長いエスカレーターで地下へ潜り、ホームへ降り立つと…
え、これ駅!?
天井も壁も電灯も、まるでお城の中のようなきらびやかな装飾です。
モスクワ地下鉄の駅は「地下宮殿」とも呼ばれるそう。
こんな素敵なお駅とともに日常生活を送るモスクワ市民がうらやましい。
モスクワに来てもまだ鉄道から目が離せないモモなのでした。



くづく